

2018年度（平成30年度）  
第1回福山市廃棄物減量等推進審議会 議事概要

2018年（平成30年）4月20日（金）15時～16時  
福山市役所本庁舎6階60会議室

出席委員数（15名）

委員：内田隆士 委員，大塚忠司 委員，川久保和雄 委員，（副会長）桑田学 委員，佐々木昭彦 委員，塩出番史 委員，瀬戸田誠 委員，園尾俊昭 委員，（会長）鶴崎健一 委員，萩田和照 委員，藤井智恵子 委員，前田美都子 委員，三好良治 委員，吉岡睦子 委員，渡辺毅 委員

事務局：環境総務課長，環境保全課長，廃棄物対策課長，環境啓発課長，環境施設課長，南部環境センター所長，西部環境センター所長，北部環境センター所長，北部環境センター新市業務担当課長，東部環境センター所長，環境総務課課長補佐，環境総務課職員

【承認・報告について】

事務局から，委員17名中15名の出席により会議開催の定員数を満たしていることが確認された。また，会議は公開で行うこととし，傍聴人はないことが報告された。

【議事（1）福山市次期ごみ処理施設整備基本構想について】

事務局から資料による説明後，質疑応答がされた。

質 疑・提 案（委員）	応 答（事務局）
前回，RDF事業から撤退するということでしたが，どうお考えか。	RDF供給先である福山リサイクル発電事業が，2023年度（平成35年度）に終了予定となっている。 そのことからRDF工場も終了となる。
処理能力600トンについて，1日平均処理量395トンというのはRDF工場に搬入する可燃ごみを含めた数値なのか。	そのとおりである。 RDFを行わず，今ある焼却施設を1施設に集約するようになる。
発電について，現在は実施していないのか。また，基本構想での発電施設の規模について実感できるように何万キロワットであるとか教えてほしい。	現在，RDFを用いての発電は実施しているが，福山市としては実施していない。 現在，ごみ処理方式の決定，発電設備の詳細設計も行っていない状況であり，基本構想において，エネルギー変換効率21.5%以上を達成することが可能であると

	まとめている。
--	---------

【議事（２）福山市災害廃棄物処理基本計画の策定について】

事務局から資料による説明後，質疑応答がされた。

質 疑・提 案（委員）	応 答（事務局）
熊本大震災で太陽光発電等の処理がなかなか解決できないということを知ったが、福山市において想定される難しい問題とはどのようなものか。	仮置き場の選定や分別をどうするかなど、そういったことも含めて本計画でどういったシステムで災害ごみを処理していくか策定していきたいと思っている。

【議事（３）その他について】

廃棄物対策課から資料による説明後，質疑応答がされた。

質 疑・提 案（委員）	応 答（事務局）
広域でのごみ処理のスタンスとして、現在、府中市はごみを有料で処理しているが、どうお考えか。	今年度、詳細な整備計画の策定を予定しており、その中でごみ処理の仕組みについて整理する予定としている。 稼動は6年後になるため、それまでに各市町と協議を進めていく。
小型家電リサイクルの回収方法について、教えてほしい。	小型家電製品については、ごみステーションに出すことも可能であるが、リサイクルを進めていくということで取組をしてきた。 持込については、リサイクルプラザ及び各環境センターで引き続き受けているので、市民の方にも持込していただけたらと思っている。
情報誌において、貴重な金属の回収、食品ロスについて身近な話題を提供しており、わかりやすかった。	—
食品ロスについて、全国的に調査した結果、かなり食品ロスがあることがわかった。ご飯にすると、毎日一人が茶碗一杯分くらい捨てられて	市民の方に広く周知したいと思っているので、今後ともご協力をお願いしたい。

<p>いる結果となっている。</p> <p>そのため、市民のみなさん一人ひとりと環境問題に対する意識を持ち意識の向上に努めていただくことを願っており、推進していきたいと思っている。</p> <p>配布されている食品ロス（クリアファイル）はすばらしいファイルだと思っている。</p>	
<p>資源回収について、私の住む団地においてアルミ缶の抜き去りが横行しており、福山市全体でかなり発生しているのではないかと思う。</p> <p>ごみステーション横に回収ボックスがあれば地域で防止ができると思うが、防止に対する費用はどうなるのか。</p>	<p>各町内会、自治会において負担となっている。</p> <p>なお、福山市において資源回収に限らずごみステーションのカラス等の防止予防ネットの貸出制度がある。</p>
<p>リサイクル率について、RDFが無くなれば回収率が12～13%ということで半分くらいになるが、そのことに対して何か考えはあるのか。</p>	<p>次のごみ焼却施設については、発電効率を高くすることをめざしている。効率よくごみが処理でき、余熱等についてもできるだけ回収をするところをめざし、エネルギー回収に努める。</p> <p>また、発電以外に余熱によるお湯が出るので、その利用を検討しなければならないと思っている。</p>